

地方財政学特論

専門 選択 2単位

宋 宇

1. 授業の概要(ねらい)

本講義は財政学、特に地方財政学に関する大学院レベルの基礎知識を学習します。「財政とは何か」というのは大学生に意識してもらいたい問題だとしたら、「大きく変化している現代社会において、改めて財政のあり方について考える」というのは大学院生の課題だと認識しています。すなわち、グローバル化、少子高齢化、財政赤字、政府間財政関係、地方財政の対人社会サービス等、様々な現実問題の中、改めて公共部門の役割について考え、検討していくというのは本講義の狙いである。受講者のレベルや研究課題を加味し、国家財政、政府間財政関係、地方財政に関する専門知識を学習します。国際比較の手法も多く使われています。さらに、レジュメ作成、個人発表、および討論を通じて、財政・地方財政の内容のみならず、課題を分析する能力、研究方法、データ収集などを学び、各自の研究テーマに応用できるようにと期待しています。この授業では、DP2に関することを習得します。

2. 授業の到達目標

履修者は財政の役割を理解し、財政の観点から現実的な課題を分析することができます。そして、自分が住まれている地域の住民として意識を高め、その立場から地方財政の課題を検討し、解決案を模索することができます。さらに、論文作成に欠かせない論理的な思考を高め、自ら問題を提起することができ、修士論文のフレームワークについて土台づくりの学習ができます。

3. 成績評価の方法および基準

・輪読レジュメの作成と発表(40%)、講義内の討論・発言(40%)、毎回の整理・学習・感想文、リアクションペーパー(20%)

・フィードバックの方法

授業内、またはメール形式で随時にフィードバックします。

4. 教科書・参考文献

教科書

沼尾波子・池上岳彦・木村佳宏・高端正幸(著)

『地方財政を学ぶ』(2017) 有斐閣ブックス

参考文献

金澤文男 『財政学』(2005) 有斐閣

井手英策(編) 『日本財政の現代史Ⅰ 土建国家の時代 1960～85年』(2014) 有斐閣

諸富徹(編) 『日本財政の現代史Ⅱ バブルとその崩壊1985～2000年』(2014) 有斐閣

小西砂千夫(編) 『日本財政の現代史Ⅲ 構造改革とその行き詰まり 2001年～』(2014) 有斐閣

5. 準備学修の内容

予習:2時間程度

・輪読のレジュメを作成し、疑問点・論点を提示します。わからない言葉があったら、事前に調べてみます。

・パソコンメールの書き方、研究室訪問の仕方、文章の書き方、参考文献の書き方、まず各自で書籍などを通じて調べ、学習しましょう。

復習:2時間程度

日頃、自分の研究課題、テーマについて、情報を収集し、研究サーベイします。思いついたアイデア、研究方法などがあれば、適宜に記述し、第15回目の「研究テーマ指導」に活用できるように準備してください。リアクションペーパーを作成します。

6. その他履修上の注意事項

・特に事情がない限り、毎回の出席が求められます。連絡なしの欠席が認められません。

・履修者の状況や人数に応じて、授業内容の計画を変更する場合があります。

・学部の「財政学」「租税論」の授業も聴講すると良いでしょう。

7. 授業内容

【第1回】 ガイダンスー研究テーマの紹介、進行などについて

【第2回】 イントロダクションー財政、地方財政を学ぼう

【第3回】 地方財政の全体像(1)ー日本の地方財政

【第4回】 地方財政の全体像(2)ー政府間財政関係

【第5回】 地方財政の全体像(3)ー日本の政府間財政関係

【第6回】 地方財政の全体像(4)ー経費論

【第7回】 地方財政の全体像(5)ー予算論

【第8回】 小括と質問タイム、中間まとめ(具体的にはそれまでの問題またはテーマごとにディスカッションしていき、一緒に問題を考えていきます。)

【第9回】 テキスト輪読と発表①ー財政のレンズをととして社会を透視しよう

【第10回】 テキスト輪読と発表②ー小さな政府はどのようにつくられたか

【第11回】 テキスト輪読と発表③ー成長しなければ不安になる社会

【第12回】 テキスト輪読と発表④ー公共投資にたよった日本社会の限界

【第13回】 テキスト輪読と発表⑤ー柔軟で厚みのある社会をささえる教育

【第14回】 テキスト輪読と発表⑥ー税の痛みが大きな社会をつくりかえる

【第15回】 総括、ディスカッション&研究テーマの個人指導